

令和2年度 山形県立新庄神室産業高等学校 学校評価書

1 教育目標 (めざす生徒像)	2 めざす学校像	3 学校経営方針
(1)幅広い知識と技術を身に付け、地域社会と産業の発展に寄与する人間の育成 (2)柔軟な思考とたゆまぬ実践により、真理を探究する人間の育成 (3)個性を尊重し、豊かな感性と創造性に富む人間の育成 (4)心身ともに健康で、正義感あふれるたくましい人間の育成	(1)規範意識を高めるとともに、社会性を育み自ら進んで行動する力を育成する学校 (2)基礎学力の定着と向上を図るとともに、生徒個々の進路実現に向けたキャリア教育を実践する学校 (3)特別活動を充実させるとともに、心身の健康と安全に努める学校 (4)地域と積極的な交流を図るとともに、地域の活性化に貢献する学校 (5)積極的な情報発信を行うとともに、有益情報の共有を図る学校	(1)「いのちをつなぐ」人づくり 自尊感情を高め、多様性や個性を受け止め、他者の生命や生き方を尊重し次世代に繋ぐ人づくりを行う (2)「学びを生かす」人づくり 自ら考え、主体的に判断し、柔軟かつ的確に課題解決できる人、多様な他者と協働しながら新たな価値を生み出し、学びを人生や社会に生かす人づくりを行う (3)「地域をつくる」人づくり 地域を愛し、地域の課題を主体的に捉え、地域の人と協働し、地域の未来をつくる人づくりを行う

達成度・評価 A：達成 B：概ね達成 C：やや不十分 D：不十分

重点目標	評価項目	具体的取り組みや方策	自己評価		学校関係者評価			
			状況・分析	達成度 (前年)	次年度への課題・改善策	評価 (前年)	意見等	
①「いのちをつなぐ」人づくり	①互いのいのちを尊重する	ア 全ての生徒に自尊感情と自己有用感を高める教育の実践 イ 多様性や個性を認め合う心を育成する教育の実践	○生徒や保護者との適切な時期をとらえた面談の実施 ○心理テスト(Q-U)の実施と結果を踏まえた個別指導	(1)新型コロナ感染症対策として、体育祭・学校祭を実施しながら、生徒の自己有用感を高めることができた。 (2)QIを用いて生徒理解を深め、学級集団づくりには有効に活用することができた。 (3)保護者との連携やコミュニケーションは概ね良好であった。 (4)生徒の自己有用感を高める指導が不足していた。	B (B)	(1)コロナ禍で感染防止策をとった上で、工夫しながら、学校行事を実施していく。 (2)生徒理解や指導方法を深めるための研修や職員間の情報共有を推進する。 (3)生徒・保護者とコミュニケーションを図るとともに、外部との連携も進めていく。	B (A)	1)今年度の学校評価アンケートを見ると、生徒・保護者ともに、評価23項目のほとんどで過去2年の評価を上回っており、①及び②に記載があるように、生徒や保護者との良好なコミュニケーションが図られていることを高く評価します。 2)③の情報モラルの教育は、非常に難しい課題ですが、今後さらに重要性を増すとと思われるので、次年度以降、しっかりと対応を期待します。
	②基本的な生活習慣を身に付け、社会の一員としての自覚を深める	ア ルールを遵守する精神を高め、より良い社会の形成者の自覚を高める教育の実践 イ 情報モラルやコミュニケーション力を高める教育の実践	○いじめ・体罰発見アンケートの実施(年2回)と組織的で迅速な対応 ○ふれあい指導(生徒及び職員・年4回)の実施	(1)生徒間の人間関係の問題に、教員間で情報共有を図り、円滑に対応することができた。 (2)全職員で共通認識を持って生活指導を行い、基本的な生活習慣を身につけさせることができた。 (3)ルールやマナーを守る意識は高まっているが、情報モラルやコミュニケーション力の指導がさらに必要である。	B (B)	(1)面談を定期的に行い、生徒の状況を適切に把握する。 (2)生徒や保護者の相談を迅速に把握し、関係分掌で連携して対応する。 (3)ホームページや学校行事、外部との連携などを進めて、生徒のコミュニケーション能力や社会人基礎力を育成する。	B (B)	3)次年度への要望：左記(1)、下記(2)、下記(3)とともに、評価項目をもう少し具体的に設定出来ないでしょうか。例えば、下記(2)の①では、基礎学力が定着したが、R2年度の平均点〇点→R3年度の平均点〇点などのように具体的な目標を立てれば、目標は明確化し、達成度の評価も容易です。
	③主権者意識を高める	ア 新聞等のメディアを活用し、情報を収集・整理し、情報を生かしたり自らの考えを持ったりすることができる教育の実践 イ 自らの考えを主張し説得できる力を育む教育の実践	○一学級一新聞 ○交通事故・不審者被害・薬物被害の防止講話 ○SNSの適正な利用指導 ○ソーシャルスキルトレーニングやグループワークトレーニングの実施(1年生)	(1)献血講話によって命の大切さを実感できた生徒が多かった。 (2)1学年はソーシャルスキルトレーニング(週1回)とグループワークトレーニング(年2回)を実施したが、例年に比べ、他者との関わり方で効果が十分でなかった。 (3)コロナ禍により交通講話を実施できず、例年より交通事故が多かった(5件)。 (4)ネットに関連する問題が見られたので、情報リテラシーや情報モラルの指導がより一層必要である。	C (B)	コロナ禍のため今年度できなかった情報モラルやソーシャルスキルに関する講話や講習を、感染防止策をとりながら工夫して実施する。	B (B)	4)コロナ禍の中で、大変だったと思いますが、あらためて病気、感染、生命を考えて欲しい。 5)最終的に社会人になる意識を高めることができれば良いと思う。 6)コロナ禍によりできなかった行事や講習があっても、交通事故等はゼロであってほしい。
②「学びを生かす」人づくり	①生きて活用できる知識・技能を着実に習得する	ア 分かるまで取り組む粘り強さと家庭学習の定着による主体的な学びを図る教育の実践 イ プロジェクト学習など、探究的に学ぶ態度と能力を育む教育の実践	○朝学習の実施(通年) ○朝読書の実施(年3回) ○基礎学力診断テストの実施と分析・情報共有 ○生徒授業評価の実施(年2回)と結果の分析	(1)長期の臨時休業もあり、生徒の家庭学習時間は増えた。 (2)朝学習や定期試験に向けて、各教科の支援が適切に行われた。 (3)朝読書は楽しみにしている生徒も多く、読書意欲を喚起する機会となった。 (4)長期休校により、実習で育まれる力が十分に育成できなかったものもあった。 (5)基礎学力の低い生徒へのフォローが必要である。	B (C)	(1)スタディサバリの活用によって、家庭学習の推進及び基礎学力向上を図る。 (2)朝学習について、その効果や方法について引き続き検討していく。 (3)朝読書は生徒の読書習慣のきっかけとなっているので、さらに効果が上がるように工夫していく。	B (B)	① ①の基本的な学力、②の農業や工業の専門的な学力、③の主体的な学習のどれも重要で、どの分野もしっかり取り組まれていることを高く評価します。今年度は、コロナ禍の影響で、特に②の実施が困難だったことは、いたし方なかったものと思います。WEB学習は、たまに活用すると、予想以上の学習効果を発揮する場合がありますので、今後の利活用が進むことを願っています。
	② キャリア教育を充実させる	ア 計画に基づく組織的かつ系統的な進路指導を通して地域を担う意識を高めるキャリア教育を実践する イ 社会で必要となる知識・技能の完全習得のための個に応じた指導の実践	○産業視察の実施 ○企業やNPO等によるガイダンスの実施 ○資格取得や各種検定の推進と合格率の向上 ○資格や検定を指導する教職員の研修	(1)インターンシップの中止など例年通りの指導はできなかったが、感染防止策をとって、各学科の産業視察や外部講師による研修会などを実施し、生徒の職業観や進路意識を高めることができた。 (2)各学科の資格取得は、コロナの影響で例年のように指導できなかったが、一定の成果を上げたものもあった。 (3)webを利用した学習活動は、環境整備は進んだが、利用はまだまだ進んでいない。 (4)進路やキャリア教育に関する情報発信は、進路・学年・学科で行ってきたが、保護者に十分に伝わっていない面もある。	C (B)	(1)コロナの感染防止対策をとりながら、インターンシップや産業視察、外部講師による研修会を実施していく。 (2)資格取得や検定合格に向けて、感染防止対策をとりながら、指導体制を整えていく。 (3)整備されたICT環境を生かし、キャリア教育や学習活動に活用する場面や方法を整理・研究する。 (4)さくら連絡網なども有効活用しながら、保護者に向けた進路やキャリア教育の情報発信をさらに推進する。	B (B)	2)基礎学力はあれば良いが、人生はいつまでも勉強でするので、そんな指導が必要。 3)インターンシップや視察は仕事に対する意識や地域に就くことに結びつけて欲しい。 4)職員の不祥事が毎年ある中で、信頼できる指導者の取り組み
	③ 主体的・対話的で深い学びを推進する	ア 個々の生徒を伸ばす教科指導や特別活動実践のための研修の実施 イ 異なる意見に傾聴し協働して課題解決を図るための授業研究の実践	○実習や課題研究における探究的に学ぶ態度や能力の涵養 ○各学科及び全校の研究発表会の実施 ○ICTによる学びの推進と環境整備 ○主体的・対話的で深い学びの実践のための職員研修会(年3回)	(1)新学習指導要領の実施に向け職員の研修を深めたが、継続的に授業改善を図っていく必要がある。 (2)コロナによる休校の影響もあり、不十分な点もあるが、生徒は主体的に学習や課題に取り組み、実りある学習成果を発表することができた。 (3)グループワークトレーニングや生徒指導に関する研修によって、生徒理解を深め、指導に生かすことができた。	B (B)	(1)継続的な授業改善に向け、校内研究授業の更なる推進を図る。 (2)各学科の実習や課題研究において、探究的な学びをさらに推進する。	B (B)	
④ 個に応じた支援体制を充実させる	ア 継続した教育相談の実施 イ 組織的な対応による効果的な支援体制の実施	○ABC委員会やケース検討会の開催 ○支援が必要な生徒への指導に関する職員研修会(年2回以上)	ABC委員会やケース検討会など、関係分掌が連携して取り組み、生徒理解と支援を円滑に進めることができた。	B (B)	(1)各会議や検討会を短時間でより効果的に行うとともに、支援体制を充実させる。 (2)専門的な外部講師による研修を継続する。 (3)外部の専門家や専門機関も積極的に活用する。	B (B)		
③「地域をつくる」人づくり	① 郷土・地域を理解する	ア 地域課題発見・解決実践・成果還元の見える化を推進する イ 地域活動への参画推進を図る	○地域課題解決型プロジェクト学習の推進 ○小中学校への出前授業	コロナ禍ではあったが、小学校に出前授業を行ったり、生産団体の自治体と連携するなど、地域課題の解決・改善に向けて積極的に取り組んだ。	B (B)	出前授業をさらに進めるとともに、地元の企業や生産団体、自治体と連携し、地域課題の解決・改善にさらに取り組んでいく。	B (A)	① ①の地域課題解決型プロジェクトや小中学校への出前授業など、コロナ禍の外へ飛び出での学習がしっかりとできていることを高く評価します。学校内でも学校外でもしっかりと活動を行っているので、次年度は、さらにマスクもへの取材依頼を進めたいと考えています。
	② 郷土・地域と連携する	ア 家庭及び関係機関との情報共有を一層推進する イ 地域力の活用の推進と地域への感謝の気持ちの醸成強化	○学級PTA・学年PTAの開催 ○PTA広報誌「神室峰」の発行(年2回) ○専門学科通信「未来の風」の発行(年4回) ○カムロバートナーシップ協議会の開催(年2回) ○ボランティア活動・地域行事への参加	(1)コロナ禍の中、学年PTA・学級PTAは開催できなかったが、学年通信・学級通信を適宜発行し、保護者に情報発信することができた。 (2)学校行事やPTAが中止・縮小となったが、PTA広報誌「神室峰」は1年間の様子がわかる親しみやすい内容になるように検討している。 (3)コロナ感染防止策をとりながら、本校の学習活動や地域イベントでの活動を発信することができた。	B (B)	(1)PTA広報活動を、例年通り2回発行し、タイムリーに学校の様子を発信する。 (2)外部の関係機関や講師をより積極的に活用し、本校の教育活動をさらに活性化させる。 (3)中学校をはじめ地域に対して、学科を中心とした本校の魅力発信を推進する。	B (A)	2)校外だけでなく、校内の活動についても、マスクにも積極的に取材を依頼し、本校の魅力発信を進める。 (3)情報発信をさらに推進するため、情報発信に対する意識の高揚と発信活動の工夫を行う。
	③ 郷土・地域等に発信する	ア Webページの適時の更新を行い、新鮮な情報発信を実施する イ 学校を取り巻くネットワークの拡大・充実に努める	○本校の行事や活動の学校HPへの迅速な情報掲載 ○本校の行事や活動のマスクや関係機関への情報発信	(1)生徒会活動や各学科の学習活動など、学校のHPで情報発信することができた。 (2)学校ホームページのシステムに不具合が生じ、情報発信に支障が生じた。 (3)コロナ禍で活動が制限される中、新聞に2回掲載されたが、マスクへの取材依頼をさらに進めている必要がある。	B (B)	(1)学校ホームページのシステム更新が必要である。 (2)校外だけでなく、校内の活動についても、マスクにも積極的に取材を依頼し、本校の魅力発信を進める。 (3)情報発信をさらに推進するため、情報発信に対する意識の高揚と発信活動の工夫を行う。	B (A)	3)地域の後継者を育んでいる学校を広める。 4)生徒数が少なくなって産業高が増えている中で、農業関係の発信が少ない(和牛甲子園、酒米づくり)など村山産業のような農業発信力も入学生を増やすことに、最上の原点は農業です。